

事業所名

児童デイサービス・ポラリス

支援プログラム

作成日

2025 年 3 月 7 日

法人（事業所）理念	株式会社WILLCAREの存在を通じて全ての人をHAPPYにする！ スタッフが全員がHAPPYであること。HAPPYな人の集まりだからこそ、他の人達をHAPPYにできる！ 全員が「成長」を意識し、自分自身をアップグレードさせていく！人のチャレンジを心から応援できる仲間である！				
支援方針	10年後、20年後の子どもたちの姿を見据え、将来に向けて今できる支援を提供します。子どもたちが将来どのように成長し、社会で活躍する姿を想像し、そのために必要な準備を進めていきます。子どもたちがポラリスで過ごす12年間をどのように過ごすかが、その後の生活スタイルに大きな影響を与えるというように考え、この時期にどのような経験をし、どのような支援を受けるかで、未来の可能性を広げることになると考え、成長を支えることが、私たちの最も重要な責務と捉え、子どもたちが学校生活から社会生活へと円滑に移行できるよう、計画的に準備を進め、子どもたちが自立し成長できるよう、確かな支援を提供します。 児童が安心して楽しく過ごせる環境を提供します。 保護者様の思いを聞き取り、将来と一緒に見据え、必要な力を身に付けられるよう個別の支援を丁寧にします。 小集団での活動を通して他者と関わる機会を設定し、お友達の顔や名前を覚える、適切な言葉の掛け方、コミュニケーションの取り方、他者と遊ぶ楽しさを知れるよう様々な遊びを行います。				
営業時間	11 時	0 分	から 17 時	0 分	まで 送迎実施の有無 <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし
支 援 内 容					
健康・生活	<p><健康状態の把握> 来所時には検温を行い、児童と一緒に具合の悪い所はないか、怪我はないか確認します。 チェックリストを作成し、毎回記録することで、自分の状態を客観的に把握できるようにします。 疲れ具合：4段階評価などで具体的に感じている疲労感を記録。 不安感：気持ちや考えを一言で記録する欄を設ける。</p> <p><健康の促進> 個人スケジュール掲示物に服薬時間の提示を行います。入室後、自ら薬をお薬ポーチに入れ機の横にかけ、全体のスケジュールも確認しながら服薬確認をします。 時間が近づいてきたら服薬時刻の予告と確認を行います。「薬を飲みます」と自ら言ってから服薬する事で、認知プロセスに繋げ行動の定着化を図ります。</p> <p><基本的な生活スキルの獲得> トイレに行った後に手を洗うことを習慣化するために、手に専用スタンプを押して消えるまで手洗いに取り組むことを視覚化します。習慣化できたら、スタンプを押すことをフェードアウトしていきます。</p> <p><構造化等により生活環境を整える> 靴箱は目線の高さ、机の高さ・椅子の形状、タオルフック、荷物籠位置は目線の先に来るように配置し、注意が逸れないように目線の先には気になる知育玩具は設置しない等、環境設定を行い、自立行動に向かう構造化を行います。</p>				
運動・感覚	<p><姿勢と運動・動作の基本的技能の向上> ラジオ体操やポージングを通じて体幹を強化し、筋力の向上や体の使い方を学びます。さらに、正しい姿勢で背筋を伸ばして座するための基礎を築いていきます。</p> <p><身体の移動能力の向上> 自席からトイレの場所までをスペースと安全を確保した上で歩行練習を行えるよう支援します。</p> <p><保有する感覚の活用> 視覚的におやつが把握できるように、大きなお皿に掴みやすいおやつを並べ掴んで食べられるよう支援します。 掴みにくい場合は支援者が一部介助します。 自身で手を伸ばしておやつを掴めるような位置にお皿を置きます。</p>				

<p>認知・行動</p>	<p><視覚、聴覚、触覚等の感覚や認知の活用> 壁掛け時計を多用し、時刻を確認しながらスケジュールを行い 「〇〇になったら〇〇をしよう」等と視覚と言葉掛けを行い時計を見て行動する意識付けを行います。</p> <p><知覚から行動への認知過程の発達> 5W1H（いつ、どこで、誰が、何を、なぜ、どのように）を活用し、文章を構成する力を身につけ、他者とのコミュニケーションを円滑に行えるよう支援します。 主に「なぜ」や「どのように」に着目できるように課題を強化していきます。</p> <p><数量、大小、色等の習得> (1)具体物の活用→積み木やカードを使い、数を触りながら視覚・触覚で学ぶ。 (2)歌やリズムの活用→数を歌や手拍子と一緒に楽しく覚える。 (3)日常生活での実践→階段や遊びなどで数える場面を意識的に作る。 (4)視覚的支援ツール→数直線や絵カードで数字の順序を視覚化。 (5)成功体験を重視→小さな範囲から始めて、できたら褒める。</p> <p><認知の偏りへの対応> 勝敗や順位などの結果よりも、他者と関わることが楽しいと感じられるように、ソーシャルスキルトレーニングや遊びを展開しながら取り組みます。 ・ルールを守って遊ぶ (1)待つ(2)順番を守る(3)事前に提示されたルールを守り、勝敗よりも他者との遊びの楽しさを感じられるように支援します。 ※事前にルール説明を行うことで、納得や理解をし、参加してもらいます。決めたルールを復唱することでルールを守れるようになるため、遊ぶ前には必ず決めたルールを本児と一緒に復唱します。</p>
<p>本人支援</p> <p>言語 コミュニケーション</p>	<p><言語の形成と活用> ・支援者に見せ困り感を伝えられる本人の意向により筆談、口頭にて発信してもらえるように支援します ・複数の選択肢から選択するや趣向を事前に把握し、選択肢に加えます。 ・身振りなどで意思選択した際はやり直しは行わず、支援者が言葉でのモデリングを示します。 ・質問の意味合いの理解の為に認識の深さを精査し、能力に合った質問の形式や表現を使って質問を提示します。 ・抽象的な質問に対しては、具体的な例や実際の体験を通じて質問の意味を教示します。 ・質問したら考える事が増えたので答えるのを待ち、意思表出をはかります。</p> <p><受容言語と表出言語の支援> <人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得> 相手のうなづきや相槌により、相手の興味・関心を気付くことができるように、まずはSSTなどでロールプレイングを行います。 無意識に本児が繰り返し話していることに関しての気付きを与えます。</p> <p><コミュニケーション機器の活用> フリック入力の習得を目指し、以下のステップで進めていきます。 (1)現在使用している50音アプリで、支援者が質問した内容に対して回答を入力する (2)フリック入力の動作を習得する (3)フリック入力で名詞を入力する練習 (4)支援者からの質問に対して、フリック入力で回答を入力する</p> <p><手話、点字、音声、文字等のコミュニケーション手段の活用> (1)会話の練習環境を整える ・ロールプレイ:支援者や友達との会話など、日常的なシチュエーションを模倣して練習する。 ・視覚支援:会話のフローを図解したカードやイラストを使って、会話の流れを理解しやすくする。 (2)質問や返答の幅を広げる ・選択肢を提示する:「お昼ご飯は何が好き?」という質問に対して、「カレー、ラーメン、サンドイッチ」と選択肢を提示。次第に自発的な回答を促します。 ・質問の種類を変える:「どこで?」「いつ?」「なぜ?」など、質問の種類を増やして会話の方向性を広げます。 (3)表現力を広げるアプローチ ・新しい言葉を教える:よく使うフレーズに加え、「すごいね」「いいね」など感情表現を追加する。 ・言い換えの練習:同じ意味を別の言葉で伝える練習をする(例:「楽しかった」を「面白かった」や「ワクワクした」に言い換える)。</p>

人間関係 社会性		<p><アタッチメント(愛着行動)の形成></p> <ul style="list-style-type: none"> ・手のマッサージを受ける ・支援者にもマッサージを行う様に握手や手指でのタッチングを促します <p><一人遊びから協調遊びへの支援></p> <p>遊びを通じて他者との関わりを促進するため、以下のステップを実施します。</p> <p>(1)支援者と一緒に遊ぶ：本人がしたいゲームやおもちゃでスタッフと遊ぶ。</p> <p>(2)支援者が仲介する遊び：支援者の介入のもと、本人と友だちが遊びを通してコミュニケーションをとる。</p> <p>(3)友だちとの二者関係：本人と友だちが直接関わりながら、遊びを楽しむ</p> <p><自己の理解とコントロールのための支援></p> <p>(1)自己理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・得意なことや苦手なことをリスト化し、視覚的に整理する。 ・ポジティブな特性を具体的に伝えて自信を育てる。 <p>(2)他者からの見え方を理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的ストーリーやフィードバックで行動が他人に与える印象を説明。 ・友達の気持ちや反応について一緒に考える。 <p>(3)柔軟な思考力を育成する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「他の人ならどう考える？」と多角的な視点を問いかける。 ・ロールプレイで様々なシチュエーションを練習。 <p>(4)日常での自己認識の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気分日記や感情カードを使い、自分の感情や考えを整理。 ・振り返りを通じて成長を実感。 <p>(5)成功体験を褒める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柔軟に対応できた際は具体的に褒め、自信につなげる。 <p><集団への参加の支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体のスケジュールをホワイトボードに掲示し、活動の確認を行います。 ・ルールの認識を得る為に、レクリエーション等でルールを守り、守る体験ができるよう支援します。 ・係を設定し他児と関わる機会を増やし、年齢に応じたやり取りが出来る様に設定します。 		
家族支援		<ul style="list-style-type: none"> ・発達状況や特性理解に向けた相談援助の実施 ・子育てや障がい等に関する情報提供 ・保護者研修会等の案内 ・個別相談 	移行支援	<p>ライフステージの切替えを見据え、次のステージで本人らしく安心して過ごして頂けるよう個人のプロフィールをはじめ特性やサポートしてもらおうと出来る事、配慮して欲しい点等をまとめたサポートブックを作成しお渡ししています。</p> <p>株式会社WILLCAREの生活介護ポラリスへの移行も行っています。</p> <p>個別面談やご相談を通じてお子様の進路について一緒に考え、強みを発揮できる場所を探します。</p> <p>職員が見学に行った就労A・B、生活介護の資料の貸出もしています。</p>
地域支援・地域連携		<p>将来の本児の余暇活動等の充実を図るように、様々な外出を通して交通機関の利用方法や公共交通機関利用の際の社会マナーを学び、体験、経験を支援します。近隣の商業施設のお買い物プログラム等を通して地域との交流を図ります。</p>	職員の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・内部研修の実施 ・職員の向上心を応援し外部研修への参加 ・療育・制度・5領域についての会議や勉強会 ・資格取得サポート
主な行事等		施設交流会、外部講師によるリトミック、長期休暇外出、社会見学、夏祭り、ハロウィンパーティー、クリスマスパーティー、卒業式等		